

剤に、エタンブトール塩酸塩 (EB) あるいはストレプトマイシン (SM) を加えた4剤併用療法を2か月行い、その後INH + (RFPないしEB) を4か月間内服する。INHによる末梢神経障害やEBによる視神経炎に注意する。治療により結核疹が一時的に悪化することがある。

a. (真性) 皮膚結核 (true) cutaneous tuberculosis

1. 皮膚腺病 scrofuloderma ★

Essence

- 現在最も頻度の高い真性皮膚結核。とくに頸部に好発する。
- 無痛性の皮下結節で始まり、瘻孔を生じて排膿することが特徴的 (冷膿瘍)。
- 皮膚以外の結核病巣 (頸部リンパ節結核など) が連続的に皮膚に波及することにより生じる。

症状・病因

真性皮膚結核の一種で、肺やリンパ節、骨、筋肉、腱などの病変が連続性に皮膚に波及することで生じる。頸部リンパ節上に好発する。淡紅色で無痛性の皮下結節が生じ、数か月で軟化し、皮膚に瘻孔を形成して排膿する (図 26.1)。この際、発赤や熱感を伴わないことから、これを [冷膿瘍 (cold abscess)] と呼ぶ。陳旧性になると潰瘍や特徴的な索状瘢痕などを形成する。自覚症状に乏しい。

診断・治療

膿汁および組織から多数の結核菌を認める。組織や膿汁からチール・ネルゼン染色や抗酸菌培養、PCR法を行う。下床に連続して存在する結核病巣の治療を十分に行う。

2. 尋常性狼瘡 lupus vulgaris ★

Essence

- 顔面や頸部に赤褐色丘疹が出現、融合して浸潤隆起性の局面を形成。
- 皮膚以外の結核病巣から血行性、リンパ行性に生じる。
- 現在はまれである。
- 慢性に経過、まれに有棘細胞癌へと移行。

インターフェロン γ 遊離試験 **MEMO**
(interferon gamma-release assay;
IGRA)



図 26.2① 尋常性狼瘡 (lupus vulgaris)
右頬部の浸潤性、隆起性、硬性の大型局面。